

2021 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	河本 信雄
研究テーマ	田中久重が佐賀藩において携わった、アームストロング砲模造の実態解明
研究概要	江戸時代後期から明治初期にかけて、職人・技術者・起業家として活躍した田中久重は幕末期に佐賀藩に出仕したのだが、この佐賀藩出仕時代にアームストロング砲の模造に携わった、とされている。だが、この佐賀藩による模造については諸説あり、定説が定まっていない。このことに関する実態を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2017 年度から本研究に取り組んでいる。これまでに研究成果として、「幕末佐賀藩におけるいわゆるアームストロング砲の製造をめぐって 田中久重と石黒直寛関係史料および文献よりのアプローチ」(一)・(二)・(三) (『福岡地方史研究』第 56・57・59 号) を発表した。同論は書き続ける予定にしており、(一) (二) は全体の序章 (実態とは異なるアームストロング砲の過大評価について述べた)、(三) は第一章第一節にあたる。第一章は研究するにあたっての問題点を述べており、第一節にては 19 世紀半ばごろの「鉄」に関係する用語を読み解く困難さを述べた。</p> <p>2021 年度は同稿 (四) (第一章第二節前半部) を完成させて投稿した。(四) には、アームストロング砲の定義/同砲の特徴である成層式 (砲身がいくつかの層からなる方式) /百科事典における記述の誤りについて述べた。(四) よりのちの草稿も完成させた。具体的には、海外百科事典における疑問と同砲の材質について論述する同章第二節後半部と基礎文献と先行研究について記す同章第三節の草稿、および第二章は成層砲製造について論ずるが、同砲の製法や製造工程が記述されている、幕末期にイギリスで製造工場を視察した日本人の記録/幕末期の翻訳書/当時のイギリスの新聞や学術書を読解して当時の製法を詳らかにする、同章第一～三節の草稿を完成させた。また、これらに伴う史料文献の調査、収集そして解読を行った。加えて、文献読み込みや所属している日本銃砲史学会での交流などにて、大砲や当時の製法に関する知識を深めた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>単「幕末佐賀藩におけるいわゆるアームストロング砲の製造をめぐって 田中久重と石黒直寛関係史料および文献よりのアプローチ」(三)『福岡地方史研究』第 59 号、pp. 94～110、福岡地方史研究会 (2021 年 9 月、査読有)</p> <p>単「日本の伝記知のパイオニアシリーズ」『田中久重と技術』玉川大学出版部 (2021 年 10 月)</p> <p>共「田中久重と技術」項担当執筆『洋学史研究事典』洋学史学会監修、思文閣出版 (2021 年 10 月)</p>
3. 今後の課題	<p>草稿を最終原稿に仕上げる。さらなる史料文献調査、収集、複写。第二章第三節よりのちの草稿作成。</p>